

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101554	
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ	
事業所名	甲府ケアセンターそよ風	
所在地	山梨県甲府市富竹3丁目3番5号	
自己評価作成日	平成29年12月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	平成29年12月27日(水曜日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様一人ひとりの思いに寄り添い、安全かつ穏やかに過ごしていただけるよう職員一同心がけています。また、ご家族様の意向・介護負担を考え、必要な方には内科・皮膚科の往診、精神科の病院受診に対応しています。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の近くには、ショッピングセンター・美術館・文化館・神社等が点在しており、社会資源を利用しやすい場所にある。2階建ての事業所の1階はデイサービス・2階が2ユニットのグループホームになっている。デイサービスと一緒に地域の行事に参加したり、グループホームで催し物を行うなど、地域の方・ボランティアの方達との交流がある。グループホームの共有スペースやフロアは広く明るく清潔感があり、居心地の良い家庭的な雰囲気の間となっている。職員は利用者一人ひとりの自立支援を目指し、「やさしさと思いやり～否定はしませんまずは受け入れます～」を理念とし、利用者・家族の思いに寄り添う努力をし、安心・安全に日常生活が送れるように支援している。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念に基づき、意識の共有をはかり実践している。	GH独自の理念に基づき、意識の共有をはかり実践している。	事業所の独自理念「やさしさと思いやり」を各ユニットフロアに掲示し、月1回のフロア会議で職員同士で話し合いを行なっている。毎日朝礼で唱和し、「～否定はしません、まずは受け入れます～」を念頭に意識の共有を図っている。職員は毎日の利用者との関わりの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会費を納め、河川清掃・夏祭りに参加している。事業所の行事などの際、地域より物品を借用したり交流している。	自治会費を納め、河川清掃・夏祭りに参加している。事業所の行事などの際、地域より物品を借用したり交流している。	自治会に入会している。民生委員の仲立ちで地域の夏祭り・河川清掃等に参加、事業所の納涼祭・敬老会・羊煮会・忘年会・餅つき大会等デイサービスとの合同の行事に地域の方を誘っている。また、幼稚園児の訪問、大学生の実習、ボランティアの受け入れ、散歩をしながら挨拶を交わす等の近隣との交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長さんとの関わりをもち、老人会などの集まりに出席し、認知症についての疑問・相談にのっている。	自治会長さんとの関わりをもち、老人会などの集まりに出席し、認知症についての疑問・相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行い、意見・要望などフロアにおろし取り組んでいる。	2か月に1度、運営推進会議を行い、意見・要望などフロアにおろし取り組んでいる。	運営推進会議は家族全員に知らせ、年間計画を決めている。2か月に1回開催、事業所からの報告など議題に沿って意見や要望が出され、テーマを決めて話し合いが行われる。最近では「夜間帯のトイレでの転倒不安のある利用者家族から、介助をどう行ってくれているか」について話し合われ、気づきやサービス向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な問題や疑問が生じた時など、地域包括センターや市役所に相談し解決するようにしている。	困難な問題や疑問が生じた時など、地域包括センターや市役所に相談し解決するようにしている。	市の担当者とは電話での連絡が主になっている。特に地域包括支援センターのフォローが多くあり、「加算・料金・制度」に関する家族から詳しく知りたい旨の要望があり説明してくれた。成年後見制度の講演等についても分からない事を相談すると丁寧に対応してくれ、円滑な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。やむを得ない場合に限り、ご家族様より了承を得て経過記録をとっている。玄関の施錠は交通量の多い道路に面している為、安全確保の面からやむを得ず行っている。希望に応じ職員が付き添い外出している。	身体拘束は行っていない。やむを得ない場合に限り、ご家族様より了承を得て経過記録をとっている。玄関の施錠は交通量の多い道路に面している為、安全確保の面からやむを得ず行っている。希望に応じ職員が付き添い外出している。	身体拘束は行っておらず、2ユニット間は自由に行き来ができ、交流が持たれている。事業所は2階にあり外に出たい利用者には時間の許す限り職員が一緒に出るよう努めている。スピーチロックについては、かかりつけ医の意見も有り否定せず、言葉の言い換えを工夫するなどの話し合いが行われ職員同士で共有出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席し、研修報告・学習会など行っている。身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるようにしている。	研修会に出席し、研修報告・学習会など行っている。身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、研修報告・学習会を行い、より良い介護に繋がれるようにしている。	研修会等に参加し、研修報告・学習会を行い、より良い介護に繋がれるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者様・ご家族様に十分な説明を行い理解・納得を得ている。入居後も不明・不安な点があれば都度対応している。	契約の際、利用者様・ご家族様に十分な説明を行い理解・納得を得ている。入居後も不明・不安な点があれば都度対応している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、意見交換しやすい雰囲気作りを心掛けている。運営推進会議や家族会で出た意見等は職員全体で共有し、運営に反映するようにしている。	日頃から、意見交換しやすい雰囲気作りを心掛けている。運営推進会議や家族会で出た意見等は職員全体で共有し、運営に反映するようにしている。	月1回行われる家族会には殆どの家族が参加。面会時には利用者・家族の率直な意見や要望を聞いている。職員・家族との関係は良好で何でも話しやすい環境である。利用者一人ひとりの‘やり取りノート’を作成し面会時家族に見てもらい状況を説明している。会議での意見を職員同士共有し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	三役会議・全体会議・フロア会議など、意見交換を行い職員全体で共有し運営に反映させている。	三役会議・全体会議・フロア会議など、意見交換を行い職員全体で共有し運営に反映させている。	エリア事業部長(課長)・管理者・ケアマネジャーを含めた3役会議を1か月に1回開催している。仕事のやりやすさ・やりやすさ・勤務体系など運営に関する意見も本社部長・リーダーで話し合いを持っている。また浴槽に入れなかった利用者が浴槽に入れる様になった、トイレ誘導を増やすことでバットの使用数が減った等、職員意見の反映から改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者は労働条件を把握し働きやすい職場環境づくりを心がけている。やりがい・向上心が持てるよう、声掛け・指導している。	施設長・管理者は労働条件を把握し働きやすい職場環境づくりを心がけている。やりがい・向上心が持てるよう、声掛け・指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、フロア会議・全体会議で学習会を行っている。法人内外の研修や資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。	毎月、フロア会議・全体会議で学習会を行っている。法人内外の研修や資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会・勉強会に積極的に参加している。他施設見学や情報交換を行い交流を図っている。	交流会・勉強会に積極的に参加している。他施設見学や情報交換を行い交流を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いに寄り添い、耳を傾け、不安を取り除き安心して頂けるよう努めサービスの導入を行っている。	ご本人の思いに寄り添い、耳を傾け、不安を取り除き安心して頂けるよう努めサービスの導入を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と充分な話し合いを行い、不安・不明な点が無いようにしてサービスの導入をしている。要望など都度対応し、信頼関係を築く努力をしている。	ご家族様と充分な話し合いを行い、不安・不明な点が無いようにしてサービスの導入をしている。要望など都度対応し、信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスを導入している。	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の出来る能力を見極め、一緒に家事を行ったり、家族的雰囲気や温もりのある関係が築けるように努めている。	個人の出来る能力を見極め、一緒に家事を行ったり、家族的雰囲気や温もりのある関係が築けるように努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活の様子・健康状態など手紙等で報告している。ご家族様も安心して生活できるとお言葉を頂いた。	毎月、生活の様子・健康状態など手紙等で報告している。ご家族様も安心して生活できるとお言葉を頂いた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの友人やご近所の方々にも気軽に来ていただけるように、面会はいつでも自由に来れるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。馴染みの場所への支援はご家族にも協力をお願いしている。	これまでの友人やご近所の方々にも気軽に来ていただけるように、面会はいつでも自由に来れるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。馴染みの場所への支援はご家族にも協力をお願いしている。	利用者一人ひとりの馴染みの人・場所などの把握は出来ている。友人・知人親戚の方達に自由に来所していただける様に依頼したり、家族の協力を得て、買い物や外食、ドライブなど馴染みの場所に立ち寄る機会を増やしたり、日常生活の中での近隣の方との触れ合いの場を含め関係性を切らない対応を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるよう状況に応じ、職員が間に入り、楽しく過ごしていただけるよう支援している。	利用者同士が関わりを持てるよう状況に応じ、職員が間に入り、楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、相談・支援に努めている。	サービス終了後も必要に応じ、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を尊重し、ご家族から情報収集を行い、可能な限り希望に添えるケアを心がけている。	ご本人の希望を尊重し、ご家族から情報収集を行い、可能な限り希望に添えるケアを心がけている。	利用者・家族の思いに添うよう努めている。意思表示が困難な利用者は食事・歌などの際の表情や仕草等、日頃の生活の中から思いを把握するよう努めている。利用者とは何をしたいかを話し合うことで、役割を持つ場面をつくり、表情が明るくなるなどの変化が見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を行い、生活環境の把握に努め、出来る限りこれまでと同じような生活が継続できるよう努めている。	情報収集を行い、生活環境の把握に努め、出来る限りこれまでと同じような生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	あまり形式に捉われず、それぞれのペースで自由にのんびり過ごせるようにしている。	あまり形式に捉われず、それぞれのペースで自由にのんびり過ごせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月フロア会議を実施し、担当者会議を行い意見を出し合い介護計画に反映している。	毎月フロア会議を実施し、担当者会議を行い意見を出し合い介護計画に反映している。	利用者・家族から入居時に意向や要望を聞き、入居2週間でモニタリング、暫定計画を立てている。医療関係者の意見、注意事項はノートやモニタリング用紙に記録、その後2~4週間で職員全員でカンファレンスを行い本プラン作成している。家族の希望も再度聞き、3か月に1回見直しを行なっている。変化が生じた場合はモニタリングに基づき都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録・気づきノート・引き継ぎノートを活用し情報の共有・実践に生かしている。	個人の記録・気づきノート・引き継ぎノートを活用し情報の共有・実践に生かしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、既存のサービスに捉われず柔軟な対応が出来るよう努めている。	都度、既存のサービスに捉われず柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ、近隣の商店・銀行・郵便局等利用し、馴染みの関係の構築に努めている。	出来るだけ、近隣の商店・銀行・郵便局等利用し、馴染みの関係の構築に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向を一番に考えている。在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、家族対応が困難な方の為、内科・皮膚科の往診があり、緊急時には職員が付き添い病院受診を行っている。	ご本人・ご家族の意向を一番に考えている。在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、家族対応が困難な方の為、内科・皮膚科の往診があり、緊急時には職員が付き添い病院受診を行っている。	往診は月1回有るが、今までのかかりつけ医に7名の利用者が家族対応で通っている。その都度情報提供を行っている、家族より結果報告を受け記録し、職員間で共有している。専門医・皮膚科は、家族と相談の上2か月に1回往診、歯科は協力医の計らいで付き添い無しの送迎付きで受診対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をとっており、看護師が常勤で勤務。必要に応じて、職場内看護師や訪問看護に相談し適切な病院受診に繋げている。	医療連携加算をとっており、看護師が常勤で勤務。必要に応じて、職場内看護師や訪問看護に相談し適切な病院受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際、必ずサマリーを用意し、より適切な医療が受けられるよう病院関係者との情報交換を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスを行っている。	入院の際、必ずサマリーを用意し、より適切な医療が受けられるよう病院関係者との情報交換を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意見を尊重し、終末期のあり方・方向性の説明、身体状況に応じ随時、話し合いを行っている。在宅医療・訪問看護の協力体制を整えるよう努めている。	ご本人・ご家族の意見を尊重し、終末期のあり方・方向性の説明、身体状況に応じ随時、話し合いを行っている。在宅医療・訪問看護の協力体制を整えるよう努めている。	看取りのマニュアルがある。ここ2年間で4名の看取りが行われた。在宅医・訪問看護との連携もしっかり出来ていて、本人・家族の意向を踏まえ、重度化の判断はあくまでもこれまでの主治医の判断する。その際、在宅医・訪問看護との協力体制が出来ているので、事業所で出来る支援内容を家族に伝え関係者と話し合い看取り対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議・フロア会議等で、急変時・事故発生時に備えての学習会を定期的に行っている。	全体会議・フロア会議等で、急変時・事故発生時に備えての学習会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。その時により昼夜の設定をしている。非常時には地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。その時により昼夜の設定をしている。非常時には地域との協力体制を築いている。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施。初期対応や誘導方法の指導を受け、段ボールで「ソリ」をつくり、階段での実践訓練・夜間帯の連絡網の確認を行っている。訓練後、今後につなげる話し合いを行なっている。また、消防団や地域の方に協力が得られる体制作りにも努めている。	災害発生時(特に夜間帯)安全・より迅速に避難誘導出来る様に対応方法を職員間で検討し、日常生活の中に組み入れる等、利用者個々に合った避難時の支援体制を職員が見につけられることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やペースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心がけている。	一人ひとりの人格やペースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心がけている。	常に理念を念頭に置き、ノックをして入室、声掛け入室、本人・家族との話し合いを持つ中で、トイレ介助等一人ひとりに合った、プライバシーを損ねない様な対応に努めている。個人情報事務所で厳重管理を行なっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを聴き、可能な限り決定出来るよう働きかけ支援している。意思表示が困難な方はキーパーソンに意見を伺うなどして希望に沿った自己決定が出来るよう努めている。	ご本人の思いを聴き、可能な限り決定出来るよう働きかけ支援している。意思表示が困難な方はキーパーソンに意見を伺うなどして希望に沿った自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの食事時間など決まっているが、一人ひとりのペースに合わせ、のんびりと過ごせるよう配慮している。	だいたいの食事時間など決まっているが、一人ひとりのペースに合わせ、のんびりと過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく自由に、身だしなみ・おしゃれが出来るよう、見守り・支援している。	その人らしく自由に、身だしなみ・おしゃれが出来るよう、見守り・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、見た目も重視した盛り付けを工夫したり、好みの物を取り入れたりしている。出来る利用者様と一緒に配膳・片付け・食器洗いなど行っている。	食事を楽しめるよう、見た目も重視した盛り付けを工夫したり、好みの物を取り入れたりしている。出来る利用者様と一緒に配膳・片付け・食器洗いなど行っている。	食事は、管理栄養士が作成、各ユニットごとに担当者が調理している。買い物は利用者と一緒に近くのスーパーに行っている。利用者はテーブル拭き、後片付け、洗い物、茶碗拭き等出来る事を行なっている。月1回外食、月2回出前を取る、季節ごとの花見の帰りに外食をする等の楽しみが沢山ある。職員は弁当持参で利用者と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考えた高齢者の栄養バランスを考慮した内容である。食事・水分摂取量がわかるように記録している。嚥下状態の見極めを行い、トロミをつけている。	献立は管理栄養士が考えた高齢者の栄養バランスを考慮した内容である。食事・水分摂取量がわかるように記録している。嚥下状態の見極めを行い、トロミをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態をチェックしている。状態に応じ送迎つき歯科受診をしている。	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態をチェックしている。状態に応じ送迎つき歯科受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムをつかみトイレ誘導を行い出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムをつかみトイレ誘導を行い出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	排泄チェック表を利用し、常に見直しを行いながら一人ひとりに合った誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様努めた事でパット使用数が減った利用者がいる。各ユニットに有る3か所のトイレには使いやすく、L字や跳ね上げ手すりが設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品を摂ったり、水分を多く摂取している。状態に応じ、主治医に相談し整腸剤・下剤の処方してもらっている。	繊維質の多い食品を摂ったり、水分を多く摂取している。状態に応じ、主治医に相談し整腸剤・下剤の処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	転倒など危険防止のため、職員の見守りが出来る時間帯に行っている。	転倒など危険防止のため、職員の見守りが出来る時間帯に行っている。	入浴は毎日午後から湯を張り、1日3~4名の方が入浴している。毎日可能だが殆どの利用者が2~3日に1回入浴。体調や状況により柔軟な対応が行われている。入浴剤を毎日変え香りを楽しんでいる。嫌がる方には無理強いをせず、声掛け、時間をずらすなどの工夫をしたり入浴を見送る時もある。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個人のペースに合わせ自由に行っている。夜間、不眠にならないように日中の活動を出来るだけしている。	就寝時間は個人のペースに合わせ自由に行っている。夜間、不眠にならないように日中の活動を出来るだけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明をよく読み把握するようにしている。薬の効果や副作用を見極め看護師に相談し、必要時、医師に情報の提供をしている。	職員全員が薬の説明をよく読み把握するようにしている。薬の効果や副作用を見極め看護師に相談し、必要時、医師に情報の提供をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事は積極的にやってみようとしている。出来ることに限りがある方は、都度、行動・思いに寄り添い、励まし・手伝いながら支援している。	ご本人の得意な事は積極的にやってみようとしている。出来ることに限りがある方は、都度、行動・思いに寄り添い、励まし・手伝いながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気候をみながら散歩に出かけている。四季折々、全員で外出するようにしている。	天気・気候をみながら散歩に出かけている。四季折々、全員で外出するようにしている。	個別支援として月1~2回、馴染みのスーパーでの買い物等に1対1で対応を行ったり、リーダーが計画を立て年5~6回、花見や外食、初詣等普段行けない様な所へ家族の協力を得て全員で外出している。天気の良い日には、2~3人ずつ交代で(20~30分)外気浴を兼ねて散歩を行い、近隣の方と挨拶を交わす等、ふれあいが多く持てるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る人は、所持している方もある。金銭管理が不能な方は、事務所の金庫で一括管理している。	自己管理出来る人は、所持している方もある。金銭管理が不能な方は、事務所の金庫で一括管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など、希望があればいつでも出来るように支援している。	電話・手紙など、希望があればいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある装飾を工夫し、室温・湿度に気を付け心地よく過ごせるよう配慮している。通路は片付け、広々とした雰囲気になるよう心掛けている。	共有スペースには、季節感のある装飾を工夫し、室温・湿度に気を付け心地よく過ごせるよう配慮している。通路は片付け、広々とした雰囲気になるよう心掛けている。	会社の文化祭で、利用者とかか月も掛けて制作した「赤富士」が入賞、事務所入り口の廊下に掲示してある。その他季節感を感じさせる掲示物や書道、利用者の楽しそうな笑顔の写真などが明るく広々としたフロアや廊下に貼ってあり、目を楽しませてくれている。また五感を刺激する食事の音や臭いが感じられ、居心地の良い空間と成っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは独りになれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。	共有スペースでは独りになれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、家にいる時と同じようにリラックスしていただけるようにしている。	使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、家にいる時と同じようにリラックスしていただけるようにしている。	エアコンと埋め込み式の洋タンスが備え付けであり、カーテン・ベッドのレンタルが出来る。それぞれの居室は、テレビ・テーブル等、馴染み物が持ち込まれ、自作品・装飾品などを飾る方もいて、心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わ	GH玄関は安全を考慮して施錠されているが、共有スペース・居室はバリアフリーになっており、安全に自由に行き来でき、思い思いに過ごしている。		